

2023 GR86/BRZ Cup Rd.7 富士 現地レポート

開催日時：2023年11月25日 - 26日

場 所：富士スピードウェイ

チーム名：Team Takuty CHIBA SUBARU Racig

参戦車両：SUBARU BRZ 87号車

ドライバー：久保 凜太郎

メカニック：加曾利 晃太 (新港店)・富井 佑哉 (市川店)
：山浦 友裕 (スバル信州)



11月23日(木)

Team Takutyとして参戦初年度の2023シーズンもあつという間に最終戦を迎えました。

チーム代表でもある井口選手のシリーズチャンピオンも決まる、大事なレースウィークがいよいよスタート。

前日、水曜日の夜に御殿場入りしたCHIBA SUBARU Racingのスタッフ。朝7:30にホテルを出発し8:00にサーキットに入り。前日に荷物搬入をチームにしてもらっていたので、テント内の準備から作業開始。いつもと違い87号車と88号車が横並びではなく、縦に並ぶ配置となっていました。今回は出場チームが多いためなのか、テント内の作業スペースがいつもより若干狭い状況。そして普段休憩に使うスペースには、今シーズンになって初めてヒーターが設置されています。それもそのはず。朝の気温は10℃を下回り、この日は昨夜の雨の影響で曇り空。路面もまだ濡れている状態で、風が冷たく気温もそれほど上がっていないためか、真冬並みに寒かったです。



今回の富士ラウンドは、練習走行が初日に集中しており、この日は3本のスポーツ走行が予定されています。

テント内の設置が終わる頃には、最終戦に挑むドライバー2人も合流。いつもと同じように、笑顔でスタッフ一人一人に挨拶しながらテントに入ってきます。ほどなく自己紹介を含めた朝礼が始まり、13:00からの1本目スポーツ走行に向けた車両の準備が始まります。



前回の鈴鹿戦で運転席ドアが開かないくらいのダメージを負った87号車も千葉スバルスタッフにより、しっかり修理されています。

今回、87号車をサポートしてくれたのは、スバル信州 上田店の山浦さん。まずは、リヤバンパーのステッカーを「スバル信州」に貼り替え、併せて鈴鹿戦で少し剥がれてしまったスポンサーさんのステッカーなども貼り替えます。そして車両各部のチェックや、レース中の担当を決めます。今回87号車の内圧(タイヤの空気圧)管理担当は、今年のNBR24時間レースメカニックでもある加曾利メカが担当することに。気付けばいつの間にか青空に変わり、綺麗な富士山も見えて



てきました。どこか和やかな雰囲気の中、いよいよ1本目のスポーツ走行が始まります。メカニック達も初めてのピット作業でやや緊張している様子。コースは全面、陽が差しており路面もドライ状態に変わりました。タイヤは新品ではなく走行済のものを使用し、走り始めます。今回は木曜日に3本の走行をし、金曜日はわずか1本の走行のみとなっているためコースに合わせたセッティングをするにはとても時間が少ない状況。更に短時間で続けて3本を走

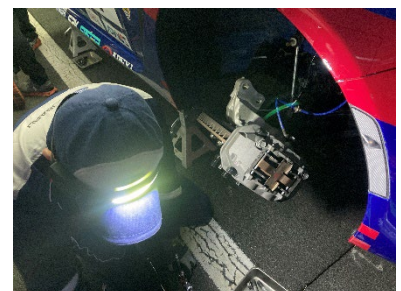
るスケジュールとなっているため、1本目の走行から各チームのピリピリモードが伝わってきます。87号車・88号車も例外ではなく、走行しピットに戻ってはサスペンションの調整や内圧の調整を実施。ドライバー2人も1本目からいつもより笑顔が少なく、外から見てもセッティングに苦戦している様子が見て取れます。あっという間に1本目の走行が終了。2本目は約1時間後の14:20～。この短い時間の中、テントでは1回目走行後のメンテナンスが進んでいきます。普段であれば走行後のメンテナンス&次の走行準備も余裕がある状況でしたが、今回は時間との勝負。できる限りのことをメカニックは全力で作業し、すぐに2本目のスタートを向かえます。今回、サービステントからピットまでの距離が遠く、走行のたびに移動用バンにジャッキや工具を載せ、ピット近くまで移動します。この2本目は、いよいよ新品タイヤでのアタックも踏まえて、準備を進めていきます。まずは中古タイヤで走行開始。1本目と同じように何度もピットに戻っては、セッティング変更を繰り返します。タイムも決して悪くないのですが、全体の真ん中位。この時点でも、やや苦戦している様子が伺えます。そして2本目の走行時間が残り10分を切ろうとした時、いよいよ新品タイヤへの交換指示が出ます。ピットに戻った87号車。少しでも早い時間でコースに戻すために、メカニックの作業にも力が入ります。順調に右側のタイヤ交換を終え、左側の作業に移った時に事件発生。なんと左前輪のホイールナットが緩まず、タイヤ交換ができない状況になってしまいました。ここで87号車の2本目の走行は終了。原因はハブボルトの損傷によるナットの噛みこみ。6戦走り続けたハブボルトとナットの劣化が原因だと思いますが、この件で87号車は2本目のセッティング走行の半分以上を失う事になってしまいました。誰が悪い訳でもありませんが、ドライバーもメカニックも言葉を失い、なんとも言えない空気が流れる中、2本目の走行時間が終了しテントに戻ります。



しかし3本目、今日最後のテスト走行の開始まで時間がありません。テントに戻るとすぐに損傷した部品の交換作業を開始。ここは我々ディーラーメカニックの腕の見せ所。加曽利メカを中心に素晴らしいコンビネーションで、約15分で損傷した部品の交換が完了。2本目のテストを半分無駄にする形になってしまったドライバーの久保選手も、怒ることなく優しくメカニックに声をかけてくれていました。こういう場面でイライラを表に出すドライバーも多い中、久保選手の言葉でメカニック達も和やかなムードを取り戻します。こういう所もこのチームの強み！でも・・・やはり、レースに関わるメカニックとしては事前のメンテナンスや、タイヤの脱着時に**ちょっとした異変**に気付かないと・・・今回の事件も、部品や作業をもっと細かく見て、ディーラーメカニックに指示が出せていれば防げたのでは・・・と私も反省する出来事でした。ただ、予選や決勝の途中ではなく、練習走行の時で本当に良かった・・・。

そして3本目の走行がスタート。復活した87号車も走行を続けますが、中々タイムが上がらない。・・・というか順位が上がらない。タイムはそんなに悪くないけれど、他の車が速過ぎる。結局この3本目のスポーツ走行もセッティングが完了しないまま走行終了となってしまいます。

走行後、いつも通り各部のメンテナンスや油脂類の交換作業を進める頃には、陽も落ち始め気温が一気に下がっていきます。作業が続く中、ドライバー2人とレースメカニックのやや険しい表情で話し合いが始まりました。そしてしばらくたった時、「**サスペンションを交換しよう**」という1つの決断が下ります。指示がプロメカニックよりディーラーメカニックに伝えられます。今までレースウィーク中にサスペンションの交換指示が出たことはありません。実は前回の鈴鹿戦走行後に、サスペンションをオーバーホール済のものと同様に交換していました。相談の結果、サスペンションを戻すということとなりました。作業を開始する頃には、辺りが暗くなり、メカニックも作業ライトを頭につけ、サスペンションの交換作業を実施していきます。そしてこの作業後はアライメント調整まで行います。普段とは全く違う環境のテントでの交換作業にも関わらず、ディーラーメカニック達は素晴らしい早さで作業を実施してい



ます。それでもサスペンションの交換作業が完了した頃には 18:00 を廻っており、外は真っ暗。気温もかなり低くアライメント調整準備までして、この日のディーラーメカニックの作業は終了。後はレースメカニックにバトンタッチをして先にホテルに戻らせてもらいました。

最終戦だからなのか・・・初日から色々なことが起こり、今までのレースウィークでもかなり濃い一日となりました。

11月24日(金)

この日は朝から穏やかに晴れ、富士山が綺麗に見える富士スピードウェイ。しかし晴天にも関わらず気温は10℃を下回り、冷え込んだ状態から作業開始となりました。

昨晚のレースメカニックによる作業で2台のアライメント調整も完了。気のせいかもしれませんが87号車・88号車共に、昨日より走りそうなオーラを感じながら作業の準備に取り掛かります。

2日目の今日は9:30～任意車検(重量測定)、そして12:50～専有走行1本。最後に公式車検が予定されています。作業の準備が終わると、あっと言う間に任意重量測定の時間を迎えました。最終戦にもなると、なんとなく状況を肌で感じることができるようになっていて、重量測定や車検にいち早く出発するチームも解ってきます。今回もそのチームが動き始めると「そろそろうちも移動開始かな？」なんて雰囲気を感じられるようになりました(笑)

そしてこの日からスバルディーラーチームとして、前回の鈴鹿戦でも仲良くさせていただいた「スバル東海地区自動車部」の皆さんと、今年は富士戦のみの参戦の、昔から仲良くさせていただいている「埼玉スバル」の皆さんが登場。両チーム、クラブマンクラスに参戦します。同じディーラーチームが増えるのはすごく嬉しいこと。期間中、わたしも



ちよこちよこテントにお邪魔させてもらいました。そんな中、重量測定を終えた2台は専有走行へ

向けたメンテナンスが始まります。お伝えしたように、昨日のスポーツ走行から大きくセッティングを変更して、ほぼぶっつけの状態での専有走行を迎えます。明日の予選に向けたこの1本の走行でセッティングを完了しなければなりません。メカニック達の作業にも自然と力が入って



いきます。そしてテントにも、若干の緊張感が漂う中、スタート時間が着々と迫ってきました。いよいよ専有走行が開始。メカニック達は少し慣れたピットでの一つ一つの作業を、昨日の出来事を思い出しながら素早く慎重に進めていきます。車がピットに入るタイミングや、サインガードでのタイム計測。初めてのレース参戦メカニックとは思えない動きで、着実にサポートをしていきます。そしてコントロールラインを通過する度に、各マシンのタイムが画面に表示。この日のトップタイムは123号車松井選手。タイムは2'01.055と昨日のスポーツ走行の2分1秒中間位から更に早いタイムを出すマシンが続々と現れます。Team Takutyの2台も昨日は2分2秒前半でしたが、昨日のサスペンション変更もあり、井口選手が2'01.406で全体の12番手。久保選手が2'01.406で13番手となりました。



気温が低いとはいえこのクラスで2分1秒台に25台が入ってくるこのプロフェッショナルクラス。この時点で率直に「みんな速過ぎ～」という感想しか出てきません。それでも、昨日の状態から比べれば、昨夜の作業判断は良い方に向かっており、ドライバー2人も明日の予選に向けて「メカニックの頑張りで車も非常に良くなってきている。予選も頑張りたい」と昨日に比べると、手応えを感じてくれているようでした。

メカニックの仕事はまだ続きます。この後の公式車検に向けた走行後の車両メンテナンスがテントでは続きます。各部の締め付け確認やオイル類の交換。タイヤの清掃や車検に向けてのアライメント最終チェックなどを実施。そして作業を終えて、車検場に車両を移動。この頃には緊張していたメカニックもやっと一息つけました。

後ろに見える綺麗な富士山とレース車両と一緒に写真が撮れるのも、ここ富士スピードウェイならでは。

プロクラスの前に行われたクラブマンクラスの公式車検は台数が多く、かなりの時間を要しました。プロクラスもかなり待ち時間がありましたが、車検も無事に終了しテントに戻る頃には陽も傾き始めており、2日目終了となりました。



11月25日(土) 予選

この日、9:00頃サーキット入りしたチームは、テント内準備をするチームとタイヤマーキングへと向かうチームに分かれて作業を開始します。レースウィークも土曜日を迎えると、同時開催のヤリスカップなどたくさんのテントが駐車場にひしめき合っており、レース参加者の多さに圧倒されます。もちろんレース関係者だけではなく、大きいレースが開催されていないにも関わらず、応援に来ていただいたお客様もたくさんいました。この日の公式予選スタートは12:10。朝から雲に覆われている富士は気温も上がりず寒い中でしたが、予選に向けた最後のメンテナンスが始まります。わたしもスタンドに移動し、いつものように久保選手の横断幕を貼る位置を選定し取り付け。今回はいつもより高い位置で、ピットからはかなり遠い所にセット。この日はいつもと違う点がもう1つ。井口選手のシーズンチャンピオンがかかったレースということもあり、密着取材が実施されています。狭いテントの中はいつも以上に人が多く、テントの外にも応援に来てくれた方もいっしょに「あーついに最終戦なのか・・・」と実感します。それに伴いメカニック達もその空気を感じているからか、いつも以上に真剣な表情で作業を続けます。何度も繰り返しメカニック達の確認作業が続き、あっという間に予選スタートの時間が近づきます。いつも以上にわたしの最終確認にも力が入ります。ドライバー2人がレーシングスーツに着替える頃には、2台のBRZの戦闘準備は完了。いよいよ2023年シーズン最終戦の予選がスタートします。



今までも何度もお伝えしてきましたが、このレースは予選が重要。そして井口選手のシリーズチャンピオンもかかる最終戦。この時点でランキング2位は7号車 堤選手。メカニックがやれる事はここまで。後は2人のドライバーに全てを任せ、いよいよピットに2台のBRZが並びます。天候は曇り、路面温度もこのレースウィークで一番低い状況の中、予選がスタート。最初にアタックするグループが続々とコースインする中、87号車・88号車は後半アタックを選択。そんな中、最初にアタックを開始した10号車 菅波選手がいきなり2'00.186というとんでもないタイムをたたき出します。その後も2分0秒代が続々と出てきます。そして3周目にアタックした80号車 伊藤選手がなんと2'00.100でトップに立った頃、2台のBRZが動き出しコースイン。1周目はタイヤを温め、2周目にアタック開始。まずは久保選手 2'00.574、井口選手は 2'02.967 で通過。いつもならここでアタック終了ですが、2台はそのまま2回目のアタックに入ります。この時、集団最後でアタックしたのは



メカニック達もその空気を感じているからか、いつも以上に真剣な表情で作業を続けます。何度も繰り返しメカニック達の確認作業が続き、あっという間に予選スタートの時間が近づきます。いつも以上にわたしの最終確認にも力が入ります。ドライバー2人がレーシングスーツに着替える頃には、2台のBRZの戦闘準備は完了。いよいよ2023年シーズン最終戦の予選がスタートします。

今までも何度もお伝えしてきましたが、このレースは予選が重要。そして井口選手のシリーズチャンピオンもかかる最終戦。この時点でランキング2位は7号車 堤選手。メカニックがやれる事はここまで。後は2人のドライバーに全てを任せ、いよいよピットに2台のBRZが並びます。天候は曇り、路面温度もこのレースウィークで一番低い状況の中、予選がスタート。最初にアタックするグループが続々とコースインする中、87号車・88号車は後半アタックを選択。そんな中、最初にアタックを開始した10号車 菅波選手がいきなり2'00.186というとんでもないタイムをたたき出します。その後も2分0秒代が続々と出てきます。そして3周目にアタックした80号車 伊藤選手がなんと2'00.100でトップに立った頃、2台のBRZが動き出しコースイン。1周目はタイヤを温め、2周目にアタック開始。まずは久保選手 2'00.574、井口選手は 2'02.967 で通過。いつもならここでアタック終了ですが、2台はそのまま2回目のアタックに入ります。この時、集団最後でアタックしたのは



今までも何度もお伝えしてきましたが、このレースは予選が重要。そして井口選手のシリーズチャンピオンもかかる最終戦。この時点でランキング2位は7号車 堤選手。メカニックがやれる事はここまで。後は2人のドライバーに全てを任せ、いよいよピットに2台のBRZが並びます。天候は曇り、路面温度もこのレースウィークで一番低い状況の中、予選がスタート。最初にアタックするグループが続々とコースインする中、87号車・88号車は後半アタックを選択。そんな中、最初にアタックを開始した10号車 菅波選手がいきなり2'00.186というとんでもないタイムをたたき出します。その後も2分0秒代が続々と出てきます。そして3周目にアタックした80号車 伊藤選手がなんと2'00.100でトップに立った頃、2台のBRZが動き出しコースイン。1周目はタイヤを温め、2周目にアタック開始。まずは久保選手 2'00.574、井口選手は 2'02.967 で通過。いつもならここでアタック終了ですが、2台はそのまま2回目のアタックに入ります。この時、集団最後でアタックしたのは

7号車ランキング2位の堤選手。なんと **2'00.141** で2位のタイム。久保選手が **2'00.497**・井口選手が **2'00.680** で予選が終了。最終的に他選手の走路外走行などもあり、久保選手13番手、井口選手は17番手となりました。2台とも素晴らしいタイムなのに・・・他が速過ぎる・・・。

予選が終わると車両は保管されてしまうため、この日は昼食をとり、テントの片づけをして作業終了。チームも早めにホテルに戻り、明日の決勝に向けて体を休めることになりました。

初日からセッティングが上手くいかずチームで試行錯誤を行った結果、素晴らしいタイムで予選を終えられたのにも関わらず、他チームの速さに圧倒された予選でしたがレースは何が起こるか最後までわかりません。

最終戦、井口選手のシリーズチャンピオンもそうですが、我々が CHIBA SUBARU Racing ドライバー 久保選手の上位入賞も期待して明日の決勝に望みをかけた予選日でした。

11月26日(日) 決勝

いよいよ、決勝の朝を迎えました。富士スピードウェイはこの日も快晴。富士山が見守る中、8:00にサーキット入りしたメカニック達は、車両保管解除の時間に合わせて、テントに戻った車両のメンテナンスに取り掛かります。そこでは各部のチェックが迅速に行われていきます。

決勝スタートは11:00。何も言わなくても、今シーズン最後のレースであることはチーム全員が認識しており、それぞれの想いを込めながら最後のメンテナンスを進めていきます。わたしもいつもより丁寧に、時間をかけて87号車に想いを込めます。



あっという間に、クラブマンのレースが終了し、決勝のスタート時間が近づきます。この日は東京スバルさんと千葉スバルの応援団、総勢200名が来場してくれました。朝からたくさんの方にもテントに来ていただき、最終戦にふさわしい舞台となりました。久保選手も井口選手も「**ここまで来たらレースを楽しみながら全力で走ります**」と意気込みを語ってくれています。

10:45 車両はいよいよコースイン。グリッドに並びます。最終戦87号車は13番手・88号車は17番手のグリッドで、メカニック達がドライバーを迎えます。しばらくすると多くのお客様がグリッドに応援に来てくれました。まるでスーパーGTやNBR24時間レースのように今シーズン最大数のお客様が応援に来ました。毎戦チームに帯同していたわたしですが、今回のグリッドの人の多さは異様でした(笑)



そんな中、メカニック達はそれぞれ自分のやるべきことを確認し、スタートを待ちます。この時点で井口選手がチャンピオンになるのはかなり厳しい状況。誰も口には出しませんが、「スタートで全てが決まる」そんな雰囲気ドライバーからもチームからも溢れ出ている感じでした。少しでも良いレースができるよう、たくさんの方で溢れる中、メカニックは最後の内圧調整を実施します。間もなくオフィシャルの笛の音でグリッドウォークが終了。コースから出るように促され、メカニック達も久保選手とグータッチ。コースから徐々に人がいなくなっていく、いよいよフォーメーションラップスタートです。

フォーメーションラップがスタートするとオフィシャルの合図でメカニック達は一斉にサインガードへ移動。レース中のサインボードを担当します。





約 4 分後グリッドに全ての車両が揃うと、アナウンスと共にシグナルブルー。決勝レースがスタートしました。久保選手・井口選手、それぞれが素晴らしいスタートでいきなり順位を上げていきます。久保選手は後ろの井口選手の位置を確認しながら 1 コーナーへと向かいます。タイム差が全くないような状況で 1 コーナーは団子状態。ピットからはアウトに降った 87 号車を見送った直後にアナウンスの音が響き渡ります。1 コーナーを抜けた辺りで、大きな多重クラッシュが発生！タイミング的に 2 台の BRZ が通過する頃だったので、メカニックも心配そうに画面に注目します。クラッシュの状態がなかなか映し出されないまま SC(セーフティーカー)が導入され、SC を先頭にコントロールラインを集団が抜けていきます。87 号車の通過を確認しホッと安心するも・・・88 号車が帰ってこない・・・直後に赤旗中断。なんとクラッシュに 88 号車 井口選手が巻き込まれてしまい、リタイヤとなってしまいました・・・

赤旗中断となったためグリッドで再スタートを待つ久保選手。井口選手とシリーズチャンピオンを争う 7 号車の堤選手は 2 番手をキープ。これでシリーズチャンピオンも絶望的と、誰もが思う状況に・・・



88 号車はかなりぐしゃぐしゃな状況・・・。井口選手の無事を心配していると、他チームの方が「井口選手、帰ってきたよ！」と声をかけてくれて、無事が確認できた時は本当に安心しました。久保選手も井口選手の無事を確認し、コース上の久保選手は、残りのレースへ集中力を高めているようでした。コースの清掃が完了する頃、再スタートの時間が告げられます。この時の久保選手の心境は解りませんが、どこか気迫を感じる表情で 87 号車に乗り込みます。スタートまでの時間を告げると、間もなく SC を先頭に再スタートが切られます。11 番手から再スタートとなった久保選手は、88 号車 井口選手のリタイヤとチャンピオンを失ったという現状を受け止めたからなのか・・・再スタートから素晴らしい走りを魅せます。そして！！一気に状況が変わる出来事が・・・アナウンスの音が響き渡り、場内が騒めきました。なんと！再スタート 1 周目でシリーズランキング 2 位の 7 号車 堤選手にピットスルーペナルティが表示されたのです！！井口選手のチャンピオンの可能性が一気に上がります！

そんな中、わたしは 88 号車の状態がどうしても気になってしまい、先に車両保管場所へ移動していました。久保選手の神がかった走りですぐ順位が上がっていくのをアドバンコーナーで確認しながら、88 号車が置かれた場所に到着。88 号車に対面した瞬間、声を失いました。いつもはほぼ傷のない綺麗な 88 号車の見る影もなく、フロント部分の損傷がとても激しい。本当に井口選手が無事で良かったと思うと同時に、どれだけ危険なレースに参戦していたのか、我々のメンテナンスがどれだけドライバーの命を預かっているのか、ということに改めて感じさせられました。井口選手は、自分の体よりも車を壊してしまったことをチームの皆に謝っていましたが、大きな怪我もなく無事でいてくれただけで本当に安心しました。

そんな状況の中、コース上では 87 号車 久保選手の激走が続きます。11 位で再スタートだったはずなのに、レースが終わってみれば 7 位でフィニッシュ。シリーズランキング 2 位の堤選手がポイント圏外となったため、**井口選手のシリーズチャンピオンも決定！！**久保選手も今シーズン 1 番の走り！と言っても良いほど素晴らしく、**シリーズ 6 位入賞**が確定しました。チーム発足 1 年目で 2 台が揃ってシリーズ入賞！！井口選手の最終戦リタイヤは残念



でしたが、素晴らしいシリーズ結果でレースを締めくくってくれました。特に 87 号車 久保選手のこの状況でもあれだけの素晴らしい走りをして自らシリーズ入賞を手に入れたのは、本当に感動しました。



レース後

1年間たくさんのご声援をいただき、本当にありがとうございました。皆さんの応援とご協力のお陰で、なんとか全てのレースに参加することができ、Team Takutyとしてもシリーズチャンピオン・6位入賞を獲得することができました。レースに参加したメカニックも、初めての経験でたくさんのことを学んできたと思います。

当社の代表 三浦も「モータースポーツを通じた車両開発は、SUBARU の文化でもありとても大事なこと」と発信しておりますが、我々ディーラーメカニックにとっても「モータースポーツ参戦はメカニックの成長に直結し、SUBARU を乗っていただいているお客様の安全に直結するものである」と改めて感じました。

チームにも恵まれ、発足当初から応援いただいているお客様を始め、毎戦応援いただくお客様も徐々に増えていったことが何よりも嬉しく、この活動を始めたことは間違っていなかったと感じています。

「スタッフとお客様が共に楽しみ、共に感動を分かち合う」

これからもそんな活動ができるよう頑張っていきますので、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

